

相模原市での対話集会

1. 対話集会へのお招き

8 月末に、旧友井上清美さんから連絡があった。かれは、かつてわたしが 1981 年夏から 84 年春までイラクのベイジ市郊外の砂漠で石油精製プラント建設に従事していた時、配管技術者として現場で共に働いた同僚である¹。会社がインドに配管設計子会社を設立した後、その事務所の指導者として 10 年以上赴任して、あちこち旅行しているうちに紅茶にほれ込み、退職後の現在、ダーズリン紅茶専門の喫茶店「Mittal Tea Room²」を営んでいる。赴任中の旅行記も 2 冊出している文化人である³。

いただいたメールは、「筒井さんのご著書『原発は終わった』をプレゼントいただき、Mittal Tea Room の書庫にお客様が閲覧できるように並べていますが、常連客の日本画家戸田みどり先生の目にとまり、単なる「反原発」ではないご著書にご感銘を受けられ、筒井さんのお話を伺えないかと尋ねられています。戸田みどりさんは、福島原発事故で被爆した牛を描かれ、後世に記録として残さなければと、10 月末頃に画集をご出版される予定です。私の Tea Room で 10 人位の聴講者を前にご著書に纏わるお話が聴ければとのことでした」とあった。戸田さんは、福島原発事故に被災した地域で、官庁からの殺処分指示に反発して今も数百頭の牛を飼っている「希望の牧場」に共感し、放射線を浴びて病死する牛たちの姿を描いておられる方である⁴。

そういうやり取りの後に、10 月 11 日午後相模原市相武台グリーンパーク内にある Tea Room で、原発を巡る対話集会が行われた。戸田さんの呼びかけに応じられた地元相模原市と町田市から来られた 10 人余りの女性たちと男性一人、当日の外来者として筆者の妻・律子、友人佐藤さん、さらに私の新入社員時代からの同僚であった小川さんが加わって、総勢 15 名余の集まりになった。ほとんどの方はあらかじめ筆者の著書に目を通しておられた。

¹ イラクでの仕事の模様は、拙著『戦時下イラクの日本人技術者』三省堂、1985 年

ちなみにこの製油所は、IS 軍が、イラクの北部地域を支配下に置いたときに占領地域に入り、2016 年秋に同軍がモスルへ撤退したときに火を放って、現在は廃墟になっているらしい。

² <https://mittaltearoom.com/>

³ 『駐在員のインド漫録』正・続、文芸社

⁴ 戸田みどり展「見捨てられた牛」ーフクシマよりー

<https://blog.goo.ne.jp/kibouno-bokujyou/e/a82f0b7570ed5457ffd261d21e18dee0>

希望の牧場の志は、針谷勉『原発一揆』サイゾー、2012 年 に詳しい。筆者も Amazon Review を投稿した。



戸田みどり展「見捨てられた牛」－フクシマより－

<https://blog.goo.ne.jp/kibouno-bokujyou/e/a82f0b7570ed5457ffd261d21e18dee0>

2. 会の進行

この日のみなさんは、「誰が考えても原発はやめて、必要な分だけ再生エネルギーなどの他の方法で発電して行けばよいの」という状況にありながら、どうしてそうならないのだろうか」ということを集中して話し合いたい、ということであった。それで、最初の30分間、オーガナイザーの戸田さんの趣旨説明と私が自己紹介を兼ねて簡単なイントロダクションをし、それから2時間自由な質疑応答、次の30分間お茶を飲みながら参加者の自己紹介や関心事・感想を述べるという進行で、14時から17時までみっちり話し合った。

私の自己紹介は、エンジニアリング会社での職歴、原発事故後原発問題に関わり、現在プラント技術者の会、NPO APAST、原子力市民委員会の活動や裁判の証人になっていることとお話した。また、「希望の牧場」には早くから関心を持っていたが訪問の機会がなかったこと、その話を聞いたときは法隆寺の玉虫厨子に描かれた「捨身飼虎図」⁵を思い出したことをお話した。

3. 質疑のテーマ

質疑応答は、自由に思いついたままをぶつけていただいたが、それらを思い出しながらテーマ別に整理するとおおよ次のようになる。

[再生エネルギー]

- －原発が無くて本当に電力が足りるのか？
- －電力料金は原発が無くては高くなるのでは？

⁵ 釈迦の前生譚（ジャータカ）の一片を描いたもの。サッタ王子に転生した釈迦が崖下の飢えたトラの母子に自らの肉体を布施するという物語。図は王子が衣服を脱ぐ、崖から身を投げる、トラにその身を与えるの3シーンを1面の中に描いている。

－再生エネルギーは本当に原発に代わるだけの実力があるのか？

－再生エネルギーが普及しないのはなぜなのか？

[原発からの転換]

－ドイツはなぜ脱原発ができたのか？

－日本の電力会社が原発に固執するのはなぜなのか？

－原発の技術者が再生エネルギー分野に移行しないのはなぜなのか？

－世論調査では、いつも 60%が脱原発を望んでいるのに、政府がその方向に意思決定しないのはなぜなのか？

－九州電力が太陽光発電による電力を遮断するのはなぜなのか？（この日のニュースに関連して）

[福島原発事故現場の後始末]

－政府・東電の「中長期ロードマップ」では、30～40年で後始末を終えると言っているがそれは可能か？

－トリチウム汚染水のタンクが敷地全体を埋め尽くして作業に支障を来すから海洋放出すると言っているが、それは環境汚染の元凶になるのでは？

－大型タンクなどによる長期保管の方法があるのではないか？

[原発輸出]

－日本人が自らの国で新設できない原発を、他国へ輸出して商売をしようという考えは余りにアコギで虫のいい守銭奴ではないか？

[原子力規制委員会と裁判所]

－原子力規制委員会は、果たして原発のリスクを正当に評価しているのか？

－裁判所が原発推進に肩入れしているのはなぜなのか？

－「社会通念」を理由に火山のリスクを無視することは正当化できるか？

[核廃棄物]

－核ゴミを土木工事資材として市中の構築物に混入しようとしているのは許容できるか？

－プルトニウムを処理または保存する方法は？

－高レベル廃棄物の地質処分は可能か？

－原発の使用済み核燃料をそれぞれ県外へ搬出すると言っているが、それは可能か？

－核燃料サイクルは可能か？

－長寿命核種を転換して無害な原子に転換できないか？

[政治の転換]

－自民党が原子カムラに毒されているのは分かったが、それに代わる政党は実力がなくて頼りにならないのではないか？

－かつて民主党政権が持続できなかったのは実力がなかったからではないか？

－選挙の際に、投票行動が政策選択と結びつかないのはなぜか？

[マスコミ]

ーマスコミが自民党・産業界の既得権益擁護にべったりなのはなぜか？

4. 終了後

会が終わってから、お近くの戸田さんのアトリエにお邪魔して、製作中の 130 号の大作を見学させていただいた。放射能で皮膚にかさぶたができ、毛が抜けた牛を美術として制作中で、あと 1 カ月ほどかかるとのこと。その後画集を発行される予定で、この日の原発を巡る考え方を参考にしてくださるとのことであった。

(2018 年 10 月 13 日 哲)